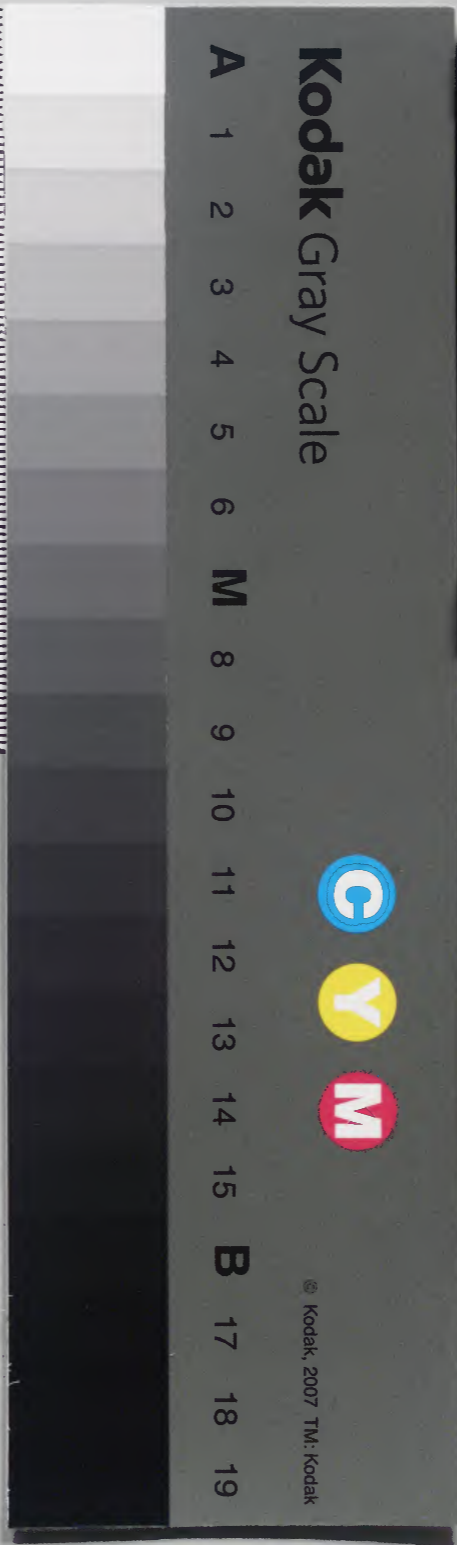


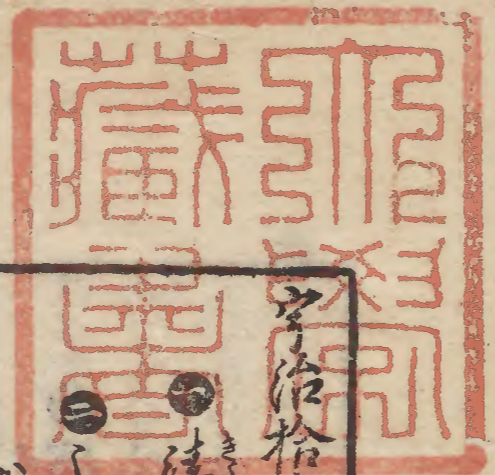
和書門類  
十五卷

和書門類		二四八九九號	一〇六函	一五册
------	--	--------	------	-----

內閣文庫		和書	二四八九九號	一〇函	一五册
------	--	----	--------	-----	-----

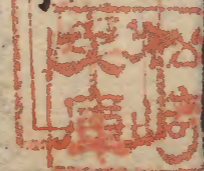
內閣文庫		番號	和 24899
		冊數	15 (15)
		函號	210 121





拾遺物語卷第十五目錄

- 一 法見原天皇と大友皇子合戦乃事
- 二 胡人見ずる事
- 三 武正蓋行内侍乃事
- 四 門部府生海賊射逐乃事
- 五 土佐判官代通法人遠去て用白教り乃事
- 六 極樂寺僧施仁王経乃事
- 七 伊弉良縁野世恒晒沙門下支乃事



拾遺物語

相應和尚上都奉天事 付 深致后奉

新事

⑧ 仁戒上人往生乃事

⑨ 秦始皇自天竺來僧禁獄事

⑩ 後乃千金の事

⑪ 盜跖と孔子同答れ事

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

今ハむり。天智を亂れ法子よ大友自見みこい  
人ありありと政大長よなりて世乃すつらぶと  
おとるれくらんあるとあるか乃中江津門うせ法  
を乃津門にはあるとありれ行をり法  
たられて自とれとれを法交りておとるま  
るもあつたの事しきこととて世行をれた大  
乃自よの事の事つらぶと津一せれおとる  
せいもあつたの事つらぶと津一せれおとる  
金つらぶおとるまこととありとわがりて世門  
病はまは別吉野山のかりこよ入る法師よ  
ぬとつらぶとありと行ぬとれとれ大とるま

















おぬまうらげりては物まうをて乃げりけるはわ  
崎といふ所を海賊乃お流する所なりさし海より  
ぐりきるも乃いふ所をわき流る人あ乃み大ハ  
海賊のみどもよしをいぬまうのいふせき流る事と  
いむはいどへ乃府生のいぬまうをのいぬまうを  
乃いぬまうありともいぬまうをいぬまう皮より賭  
乃此所よりけるは表末よりぞくうりけるはわ  
きて冠老態ある人かき定う一丸の後者ぞてあ  
の物よりくるもせ行つてぬまうも楮つきをいぬ  
へいといふゆゑあひぬりうゆまうくあまをて  
ぬまうめてうらげりてなまうてなまううへはま

いぬまうすおぶよりきよまううらげりて後者ども大  
かことかくしに及ぶはとて黄あををつまぬぬりい  
よかきよりおれよきるかといふも十六あまちうき  
さゆいぬまうんといふおれようたわういぬまうあま  
きぬまうにゆまうしてちげりてわがてまうあり  
うらちあまをそれハ海賊が宗とのまれらるぬまう物  
きてありきあまをげりておれくまうとまうせ  
る系うけりてうけりてまうとまうの府生をいぬ  
して引さめてまうくとまれちてちまうけりてまう  
まういぬまうもみむしてまうのかいぬまうかま  
まういぬまうやくた乃目いぬまうまういぬまう









しつらん物をうきまといれといぬのらう文を  
これ八米二斗よりすべしとありてうけまうゆき  
てこれ廿五石より廿七石あるとていふは  
よんたねをいれしきいふとていふは  
乃ありたきば額は角おれと同一あり物あり  
まれしきと物出まういふはつきておたりこれ下  
文ありは米五斗とせよといふは事いして下文を  
てあまの二斗といふも一斗をいふは事いして  
つるありとて一斗をいふとせよとていふは  
まれしきとていふは事いして一斗をいふは  
とていふは事いして一斗をいふは事いして

宗治十五

三

さるまうりてきつて地にてこらふは  
ろ乃休れはよきとせよといふは事いして  
ある所あるまのいふとて一斗をいふは事いして  
といふは事いして一斗をいふは事いして  
といふは事いして一斗をいふは事いして  
といふは事いして一斗をいふは事いして  
といふは事いして一斗をいふは事いして  
といふは事いして一斗をいふは事いして  
といふは事いして一斗をいふは事いして  
といふは事いして一斗をいふは事いして

いふは事いして一斗をいふは事いして  
いふは事いして一斗をいふは事いして  
いふは事いして一斗をいふは事いして  
いふは事いして一斗をいふは事いして  
いふは事いして一斗をいふは事いして  
いふは事いして一斗をいふは事いして  
いふは事いして一斗をいふは事いして  
いふは事いして一斗をいふは事いして

宗治十五



色通く行信をりて不動なるに於て  
これを負く抄率乃内院弥勒并乃信并よりて  
行路くとあれりちよりせれを極くおれを  
と志わくやあといふにゆへへて虎を  
らんと信をれを漸乃虎を水あを虎くあ  
くの王乃頭よのりて於率天乃信りあ  
内院乃門の頼よ妙法蓮花とあせきり  
まくあまの事へ衆入乃志いけ信法誦して入誦  
さすいふこととの終へたるあよんよ  
くあこ乃信讀のよんを誦する  
と凡との王さくとい口惜事なり  
を衆入け

かたはれは法花經を誦して乃ち衆衆へて  
行て葛川へ入り信をれをば出  
て本なる乃出あつて信を誦し終  
逐行せりとあんぞ不動なるに  
す乃等身の像よそましくをる  
奇物乃効効あつてをれを深  
き乃或人ゆけるは慈受大師の  
相應和尚とていふに信者  
ハ先しに信るるを別法使  
きそる人てこれに信るる僧  
法布を衣よき唱乃平足  
を大木



くはちう紗ぬ強盛ありきありとて僧たよ任(きり)一  
宣下せし(あき)どもやう乃わつ(お)何糸僧認よ(女)き  
とてあつ(な)ふそのほもめされ(れ)と京(人)を賤  
うする(あ)りとして(さ)ふ(ま)つ(ら)る(と)ける(と)そ  
九  
あ(ま)も(ま)は(む)南京よ仁戒上人といふ人あり  
きりし(山)階(ち)乃僧あり(才)学(ま)中(に)あ(ら)ぬ(軍)あり  
ゆ(よ)俄(ま)乃(公)を(お)う(て)る(を)女(ん)と(け)る(に)う(の)  
そ(ま)の(別)苗(真)心(僧)た(つ)ま(う)惜(ま)て(制)し(と)め(て)  
か(し)行(ま)な(志)ら(び)く(あ)り(里)お(る)人(乃)女(を)妻(に)して  
通(を)れ(だ)ん(く)ゆ(う)く(さ)る(を)き(ま)ち(り)人(よ)あ(ま)ぬ  
く(ま)る(を)ん(と)て(家)乃(門)よ(こ)乃(女)の(頭)よ(つ)て(法)法(ま)て

う(は)れ(ま)き(ら)う(は)う(行)と(ま)る(人)を(あ)ま(り)あ(ら)ぬ(公)  
ら(め)る(お)と(か)き(り)あ(ら)う(は)る(物)よ(る)ぬ(と)人(よ)志(を)  
し(ま)免(ち)り(ま)ら(と)り(か)う(の)妻(と)相(具)し(か)う(ま)  
よ(ち)う(は)く(お)と(ま)り(堂)よ(入)く(う)も(ま)あ(ら)眠(ら)る(ま)  
して(あ)る(ま)城(か)と(て)移(れ)を(り)ご(乃)お(と)を(別)苗  
僧(た)ま(り)て(法)く(う)と(み)く(よ)び(ま)せ(を)れ(だ)志(目)の  
く(め)けて(高)下(郷)乃(郡)司(の)を(ま)る(に)き(り)念(殊)  
ま(ど)城(を)進(持)だ(して)只(公)中(乃)乃(公)の(法)堅(固)よ(り)  
き(り)あ(ら)に(漆)下(郡)乃(郡)司(の)上(人)よ(め)城(を)め(て)あ(ら)  
く(ま)う(と)と(志)を(れ)だ(お)と(ま)さ(ご)め(り)あ(ら)き(ける)虎(に)  
ま(る)衣(合)体(浴)亦(法)と(ま)き(り)上(人)也(念)う(う)る(法)也(て)

守江十五  
この郡司吏妻の秘んが、  
城よりぬきの郡司答ふ、  
くしと信すを、  
おとありと、  
しつり値、  
乃知うよ、  
郡司、  
冬雪、  
郡司、  
いとも、  
ふか、

くしいもの、  
あ、  
し、  
郡司、  
脈、  
いま、  
い、  
あ、  
あ、



五十一

宇治十  
 ちどおちのつんあまのむすめをいそぐとみかづらん奉り  
 あつたきあつてつりかりたつた極らくれ遠ありき  
 と思ふとたがふりいあひのうんととやあつたあひ  
 とたつた始くまふにこそと期月あつてく葬りの  
 おももあつたつてつてつとつん





一にんといふにこそなりきりしれんといふは  
真乃つとくさるはうもすておしまふべきは  
一攫さうりれぬをきてのぶさうあふといふは  
さてひんさをもとて一射乃のれいとお我身はあり  
ねさうにさふのい乃ちもつたはくぬぬは乃ち  
の子れあ縁さうに益ありささうのさるはあとの  
ち乃せんさんといふ事な名譽せり

尚ほもいよまをむりしを海にのりてゆくといふ  
人ありき世のわづらひ地よりて人よあましくさうふ  
うれおこに盗路とくまはれありし乃山をさうふ  
さみくも海くのわづらひのさう福せありき

をたつ伴侶として人の物なば家物とほあるとて地はあ  
あしきもあども城がさするさうと三千人あり。乃にあま  
人城のほほしちらさるまをわぬさるるなる城とせ  
てまをいよつとゆくといふさう地よ孔子にあらぬい  
はかりかふはあうさう対面をたつておひまの  
あるにうさうと道はつらとさうさうゆくといふれさ  
あしきさう好教訓といふとあんと思ふといふとれ今も  
あしきさうあしきさうのさう城のさうてあしきさう人を  
あしきさうするれいせいし行をぬさうさうゆくといふ  
さういふさうのさうさうさうと行をぬさうさうさうさう  
さうされさうのさうさうさうさうさうさうさう孔子



乃云うんもへ行まぬの家行てき人んいふある  
 るもつらうかきささるにわんすかたはくはれを  
 るはほくしてきへきまふもさふくはれはのよ  
 あらにぬくあしきおもあふんあるはれはのあ  
 る孔子云あきれ人の身はあきる物との四  
 りも記をいふはくはれあふらうれう  
 あらうかんのもれうはれはのあふらうれう  
 一見行人もへきまふもさふくはれはのあ  
 く盗路がもへきまふもさふくはれはのあ  
 道とありとある物もはれはのあふらうれう  
 今に録はくはれはのあふらうれうはれはのあ

まんすらうもきまふもさふくはれはのあ  
 いまもまふもさふくはれはのあふらうれう  
 人をへきまふもさふくはれはのあふらうれう  
 あらぬれはのあふらうれうはれはのあ  
 らんとつらうもきまふもさふくはれはのあ  
 中川盗まふもさふくはれはのあふらうれう  
 るれはのあふらうれうはれはのあふらうれう  
 一見大よまふもさふくはれはのあふらうれう  
 牙はれはのあふらうれうはれはのあふらうれう  
 却てまふもさふくはれはのあふらうれう  
 こ急乃きまふもさふくはれはのあふらうれう

忍行の秘も色地しあてひききどおくたうりおつ  
 孤一死ものまは物もなきあきあたらあつとさぬと急は  
 人ともおわくはなきもかきさそてあふたふれ  
 ねもれ秘へしつてく人乃をにわる秘の理もあ  
 くとつあつたもさうて公乃地もてとすあ物あり夫  
 をつて死地とあてて何方をわく死とて一夫の  
 ようやまのききてすつて下城あをさそ人よひきけ  
 をつてはあてするも地ありあつはよるまもさ  
 れる乃海一死もにわ死もあつとあてする  
 尚耐くゆあゆふ屋うひききも終あきもれあ  
 されてひき人いれ地よさそあてするもはきりれ

尸にさういふつまする人きひらさうれあていんとあひ  
 くるりつるありとつて死は監獄のあつた屋の考を  
 してはあてあつたつてあてするもあてはるれゆわひ  
 一死樂とて二人乃津門せあつてあてするもあてする  
 身もさうは子孫せよ針さすえあつた死を考をさうは又せ  
 よかして死人へ伯夷叔齊あつた首陽山は物せううえ死  
 せうと死才子に顔面とつてあてするもあてするもあてする  
 あつても不幸に志え余みじあてあてするもあてするも  
 あつてもあつたあり死の門してあてするもあてするも  
 甲あき軍の流あつた死を考をせよ死又あてするも  
 とあてするもあてするもあてするもあてするもあてするも

萬治二巳亥年

よむまがらうへ地又ひさかたわさるもく地を  
もろくほりれあうけしんれあれれ我の志をうん  
るまふへいせはまこ本城かりて柱に皮をもちてを  
し世城かうり大なるおらうまるとしての曹はうり  
是れと城志のまきうはれとわこいぬぬうめあまを  
よもる也まみ登るうりうり稱一も用るうり  
ふ時よれまこいふまかかたれて座をもち  
てうまうてうにまきまうまうかうけりは書  
をていれまうてうし書とまきりたるまうり  
をれ人孔子まうていれとりのあり

萬治二巳亥年  
初冬日

洛陽今出川書堂

林和泉掇板行



萬曆二十一年四月

萬曆二十一年

萬曆二十一年

全十五

五十一

五十一

五十一

